

## 第3学年〇組 道徳科学習指導案

日時 令和〇年〇月〇日(〇)第〇校時

場所 3年〇組 教室

児童数 〇〇名

授業者

1 主題名 みんなの使う物 内容項目[C 規則の尊重]

2 ねらい 約束やきまりを守ることのよさを話し合い、考えることを通して、みんなが使う物を大切にし、人に迷惑をかけないようにする意欲を育てる。

教材名 「黄色いかさ」(出典:「新しいどうとく3」 東京書籍)

3 主題設定の理由

(1)ねらいや指導内容について

小学校第3学年及び第4学年の内容項目「約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。」に関するものである。これは、一般的な約束や社会のきまりの意義やよさについて理解し、一人一人が身近な生活の中で、約束や社会のきまりと公共物や公共の場所との関わりについて考えることをねらいとしている。この内容項目について、他の学年との関連をまとめると以下ようになる。

小学校第1学年及び 第2学年 C	小学校第3学年及び 第4学年 C	小学校第5学年及び 第6学年 C	中学校 C
約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。	約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。	法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。	法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。

児童が成長することは、同時に所属する集団や社会を構成する一員として集団や社会の様々な規範を身に付けていくことでもある。そのためにも、約束や法、きまりを進んで守ることができるようにすることが必要である。法やきまりは自分たちを拘束するものとして自分勝手に反発したり、自分の権利は強く主張するものの、自分の果たさなければならない義務をなおざりにしたりする者も存在する中で、社会の法やきまりのもつ意義について考えることを通して、法やきまりが、個人や集団が安全にかつ安心して生活できるようにするためにあることを理解し、それを進んで守り、自他の権利を尊重するとともに義務を果たすという精神をしっかりと身に付けるように指導する必要がある。その際、法やきまりを守ることは、その自分勝手な反発等に対してそれらを許さないという意思をもつことと表裏の関係にある。

また、身近な集団におけるよりよい人間関係づくりや人間関係における規範意識について考えさせるために

も、重要な内容項目である。特に、人と人が仲間をつくり、よりよい人間関係を形成する上では、自分の思いのままに行動するのではなく、集団や社会のために自分が何をすればよいのか、また、自分に何ができるのか、自他の権利を十分に尊重する中で果たすべき自らの義務を考え、進んで約束やきまりを守って行動する態度を養うことが必要である。

小学校第3学年及び第4学年のこの段階においては、気の合う仲間や集団の中にきまりをつくり、自分たちの仲間や集団及び自分たちで決めたことを大切にしようとする傾向がある。また、一人一人が身近な生活の中で、約束や社会のきまりと公共物や公共の場所との関わりについて考えることは少ない。

指導に当たっては、そのような発達の特性を生かし、一般的な約束や社会のきまりの意義やよさについて理解し、それらを守るように指導していくことが大切である。さらに、社会集団を維持発展する上で、社会生活の中において守るべき道徳としての公德を進んで大切にす態度にまで広げていく必要がある。特に、集団生活をする上で、一人一人が相手や周りの人の立場に立ちよりよい人間関係を築くことや、集団の向上のために守らなければならない約束やきまりを十分考えることが必要である。

## (2)これまでの学習状況及び児童の実態について

約束やきまりを守ることのよさを実感させるために以下の指導を行ってきた。

社会科「学校のまわりの様子」の学習では、学校のまわりを探検した際、歩道や公園など多くの人が利用する場所について学習した。歩道を歩く時などには、約束やきまりを守って大切に使うことについて指導した。その結果、静かに歩くことや広がらないで歩くことなど人に迷惑をかけないように行動することは大切であると分かった。その一方、友だちと活動することの楽しさが勝ってしまい、人に迷惑をかけないように行動することができなくなってしまうこともある。

日常生活では、机やいす、ロッカーなどみんなで使う物を大切にし、他人に迷惑をかけないようにすることのよさについて指導してきた。その結果、ロッカーや机、いすは常に整頓されていたり、友だちに物を借りたときにはきちんと返したりする児童が多くいる。一方、物を大切にしていなくても、いすを出しっ放しにしてしまうなど他人に迷惑をかけないように行動できていない児童もいる。

そこで、みんなが使う物を大切にし、他人に迷惑をかけないようにすることのよさを実感させていく。そのために、約束やきまりを守ることは大切なことであることに気付かせ、その意欲を高めたい。一方、状況や場合によっては、規則を軽視してしまうことも起こり得ることであると受け止め、自分が規則を守れなかった時には、素直に反省し、そこからこれからの自分の行動を見つめ直せるような意欲を育みたい。

## (3)教材の特質や活用方法について

駅の改札口にある、誰でも自由に使える黄色い傘が、心ない人たちによって返されないままになっている。大助もその一人であった。返さなければいけないと分かっていつつ何日かたったある雨の日のこと。駅でおばあさんが困った様子で立っている。改札口には黄色い傘が1本もないことを知り、大助は急いで家に向かって走りだす。大助がおばあさんの困る姿を見て、自分の行為を反省するという内容である。

中心発問では、おばあさんに迷惑をかけてしまった大助に自我関与させ、黄色い傘を返さなかったことでおばあさんを困らせてしまった大助の気持ちを考えさせる。また、おばあさんは黄色い傘がないことでどんな気持ちになったのかについても考えさせることでさらに深めていきたい。

そのために本時は、深化を意図して授業を行い、以下の流れに沿って考えを深めていく。

人間理解を深めるために、学校の帰りに、駅の黄色い傘を借りて家に帰った大助やその後、お母さんに傘を返すように注意された大助に自我関与させて、約束や決まりを守ることの意義について考えさせ

る。

また、他者理解を深めるために、おばあさんから黄色い傘が1本もないということを聞いたときの大助に自我関与させ、約束や決まりを守って生活し、他の人に迷惑をかけないように行動することの大切さについても考えさせていく。

今回はこの教材を活用することで、本時のねらいとする道徳的価値について考えさせたい。

#### 4 指導の工夫

##### ① 教材を提示する工夫

導入では、授業全体を通して考えていく学習課題を掲げ、ねらいとする道徳的価値について問題提起する。

##### ② 発問の工夫

児童の問題意識が生み出され、多様な感じ方や考えが引き出されるようにする。

##### ③ 書く活動の工夫

展開後段では、書く活動を通して、ねらいとする道徳的価値の自覚および生き方について考えを深めさせる。

##### ④ 板書を生かす工夫

児童の思考の内容や過程がわかるよう構造的に板書していく。

##### ⑤ 指導観シートの作成

指導観シートを作成、活用し、発問の意図やねらいを整理することで明確な指導観のもと授業が進められるようにする。

#### 5 学習指導過程

段階	学習活動(○主な発問)	・予想される児童の発言	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	1 学習課題を設定する。 ○みんなで使う物をどんな気持ちで使っていますか。	・壊さないようにしている。 ・大切にしている。	・日頃の経験から想起させる。 ・学校内の施設や物品などが挙げられるだろうが、社会的な施設に目を向けられるようにする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p><b>問題意識をもたせる導入</b></p><p>T: みんなで使っている物にはどんなものがありますか。 C: 給食の袋 C: テレビ C: 遊具 T: 学校以外の場所はどうかな。 C: 公園やスーパー C: 自動販売機 C: 図書館 C: 公園のトイレ T: みんなで使っている物をどんな気持ちで使っていますか。 C: 大切に使っている。 C: 壊さないようにしている。 C: 次に使う人を困らせないようにしている。</p></div>		

	やくそくやきまりとは		
	2 教材「黄色いかさ」を読んで話し合う。		
	<p>駅の改札口にある誰でも自由に使える黄色い傘が、心ない人たちによって返されないままになっている。大助もその一人であった。返さなければいけないと分かっていつつ何日かたったある雨の日、駅でおばあさんが困った様子で立っている。改札口には黄色い傘が一本もないことを知り、大助は急いで家に向かって走り出す。大助がおばあさんの困る姿を見て、自分の行為を反省する。</p>		
展 開	<p>(1) 学校の帰りに、駅の黄色い傘を借りて家に帰った大助は、どんなことを思ったでしょう。</p> <p>(2) お母さんに傘を返すように注意された後、大助はどんなことを思っていましたか。</p> <p>(3) おばあさんから、黄色い傘が1本もないということを聞いたとき、大助はどんなことを思ったでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが使える傘があって便利だな。</li> <li>・使っていていいと言っていたけれど、誰でも借りていい傘なんだな。</li> <li>・面倒くさいな、そのうち返そう。</li> <li>・一人ぐらい返さなくても大丈夫だろう。</li> <li>・黄色い傘を返しておけばよかった。</li> <li>・お母さんに言われたときに、すぐ返せばよかった。</li> <li>・みんなの使う傘なのに自分勝手だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当然のように黄色い傘を使った大助の気持ちを考えるに当たっては、茂や大助のお母さんの発言を手がかりにする。</li> <li>・大助の自分勝手な思いに気付くようにする。</li> <li>・みんなで使うものを大事にしていないことを自覚したときの気持ちを考えるようにする。</li> <li>☆おばあさんの言葉を聞いたときの大助の気持ちを多様に考えている。</li> <li>・傘がなくて困っているおばあさんの気持ちにも目を向けさせる。</li> <li>・導入で発表された公共物、公共施設などについて考えるようにする。</li> <li>☆自分の体験と結びつけながら、規則を尊重して行動することのよさを考え、ワークシートに記述している。</li> </ul>

<p style="text-align: center;"><b>人間理解を深める話合い</b></p> <p>T：傘が一本も無かった時、おばあさんはどんな気持ちだったかな。</p> <p>C：帰りたいのに。</p> <p>C：どうやって帰ろうかな。</p> <p>T：黄色い傘が一本も無かったことを聞いたとき、大助はどう思ったかな。</p> <p>C：返しておけば良かった。</p> <p>C：傘を返さなかったからおばあさんが困ってしまった。</p> <p>C：悪いことしちゃったなあ。</p> <p>C：なんで返さなかったのだろう。</p> <p>C：早く返しておけばおばあさんは困らなかった。</p> <p>T：その結果、どうなったかな。</p> <p>C：おばあさんを困らせてしまった。</p> <p>T：大助は傘を壊した訳ではないよね。何がいけなかったのかな。</p> <p>C：傘を返さなかった。</p> <p>T：みんなで使う物をこれからどう使っていけばいいかな。</p>		
<p>3 みんなで使う物を、これからどんな気持ちで使っていたかを話し合う。</p>		
<p>終末</p>	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<p>・公共物のよりよい使い方について示唆を与えるようにする。</p>

## 6 他の教育活動との関連

### ・日常生活

校内にあるみんなで使う物を大切にしようとする意欲を育むために日常的に指導していく。

## 7 評価の視点

### 【物事を多面的・多角的に考えている様子】

・友達の発表を自分の意見と比べながら聞き、多様な視点から約束やきまりを守ることのよさについて考えている。

### 【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

・自分の体験と結びつけながら、規則を尊重して行動することのよさを考えている。

8 板書計画

～黄色いかさ～

やくそくやきまりとは

黄色いかさを借りたとき

- ・みんなが使えるかさがあっていいな。
- ・だれでも借りていいんだな。
- ・しげるくんは使っているのかなと知っているけど。

場面絵  
(黄色いかさ)

黄色いかさ

- ・かさを持っていない人にべんり。
- ・だれでも使える。

黄色いかさを返すように言われたとき

- ・めんどくさいな。
- ・そのうち返そう。
- ・一人ぐらい返さなくてもいいよね。

黄色いかさが一本もないと聞いたとき

- ・返しておけばよかった。
- ・お母さんに言われたとき、すぐに返しておけばよかった。
- ・みんなの使うかさなのに自分勝手だったかな。
- ・他の人にめいわくをかけてしまった。

